

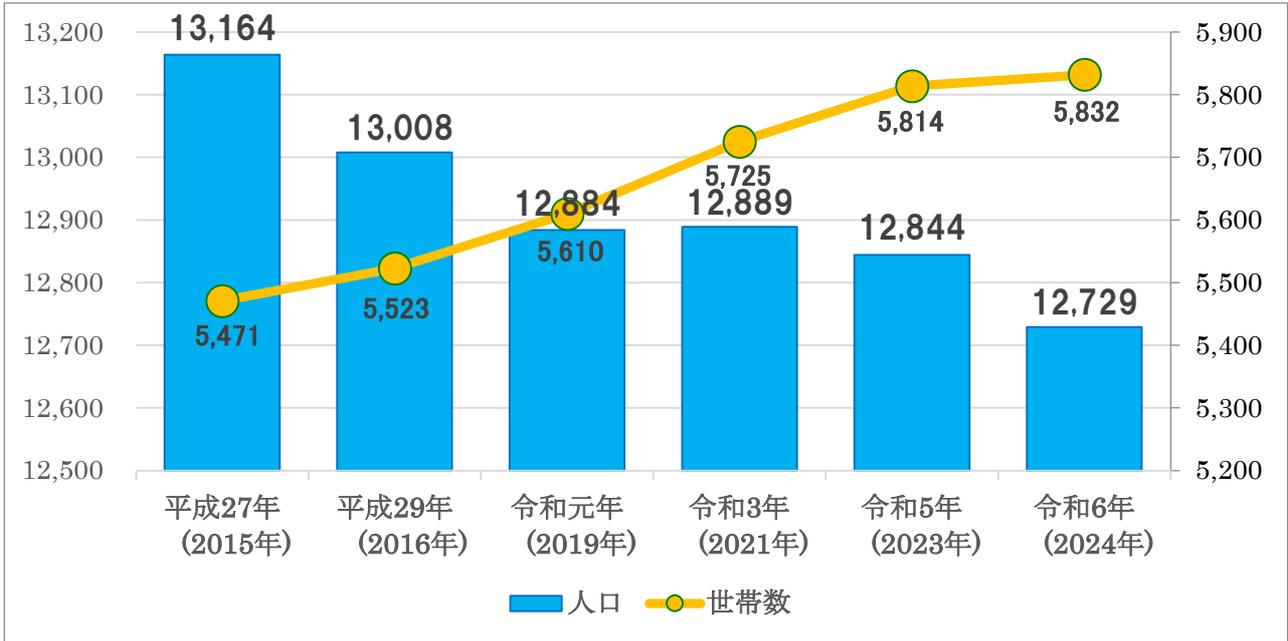
# 船越地区 カルテ

## データについて

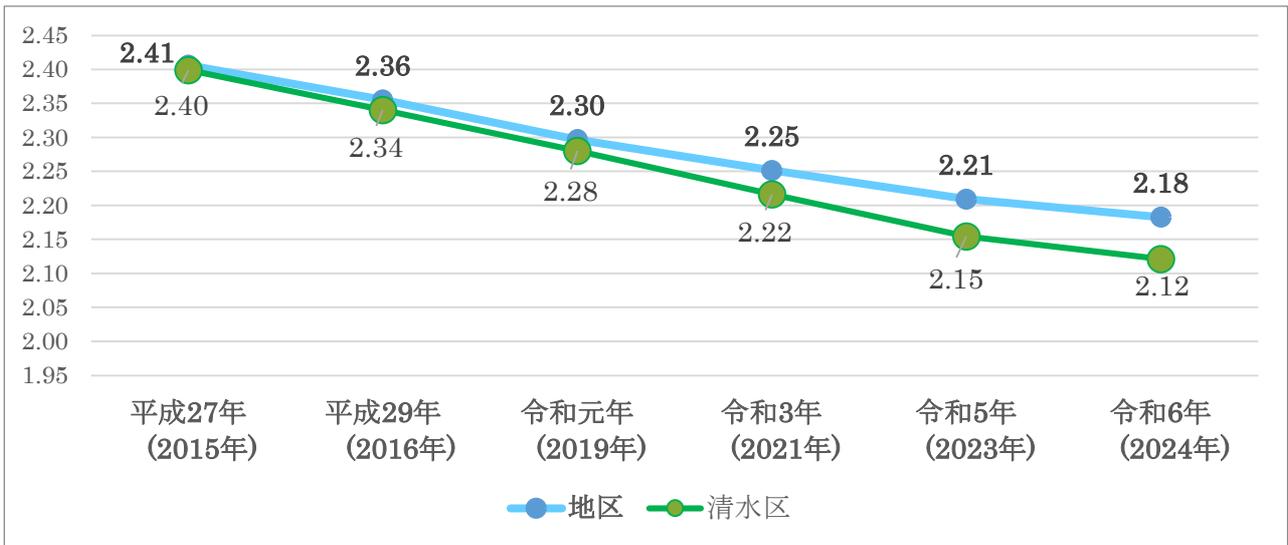
- ・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。
- ・住民基本台帳は各年の3月31日の数値、自治会加入数は各年の4月1日の数値です。
- ・町名は住民基本台帳を採用しているため、自治会名と一部異なる場合があります。

**船越地区の人口特性 令和6年3月 12,729人 5,832世帯 2.18人/世帯**

●人口・世帯数の推移



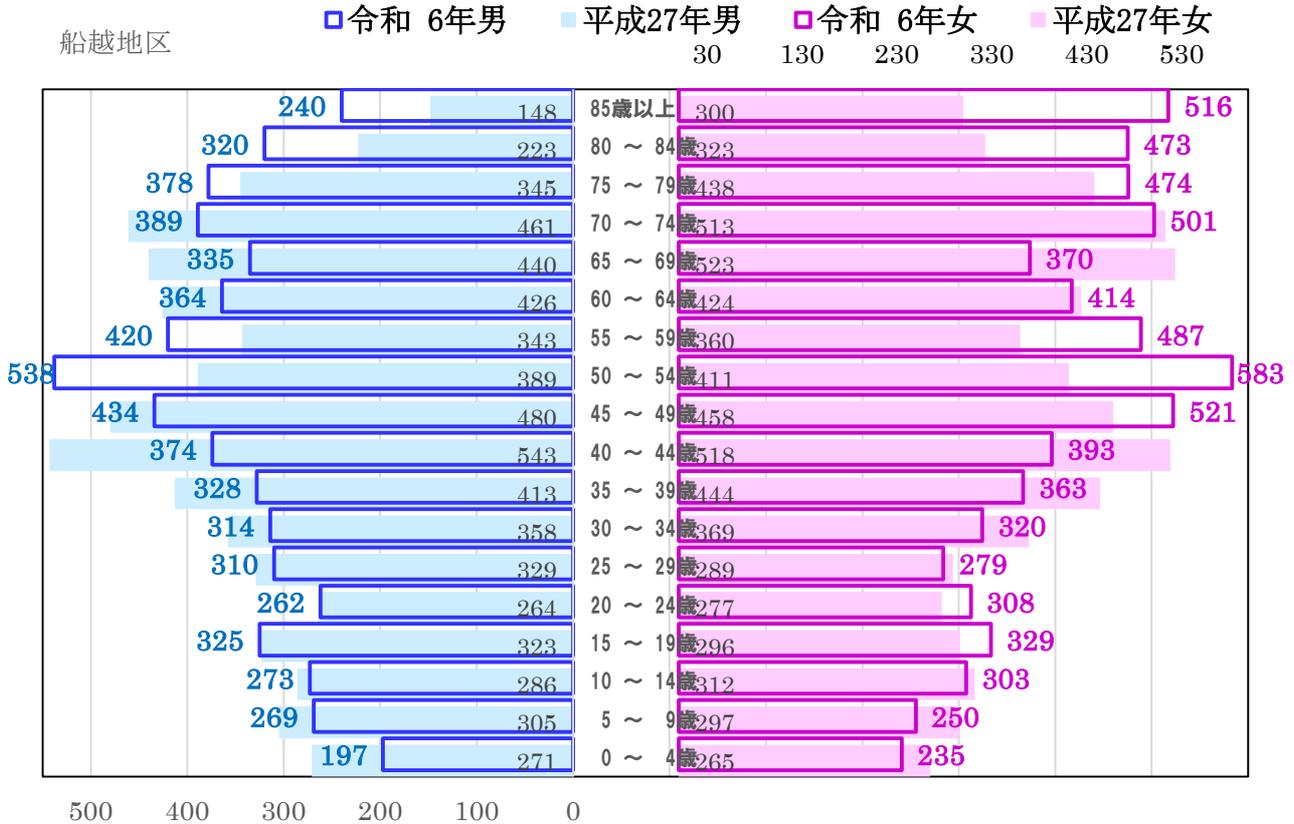
●一世帯当たりの人口推移



●65歳以上の高齢者を支える生産年齢層 (15-64歳)

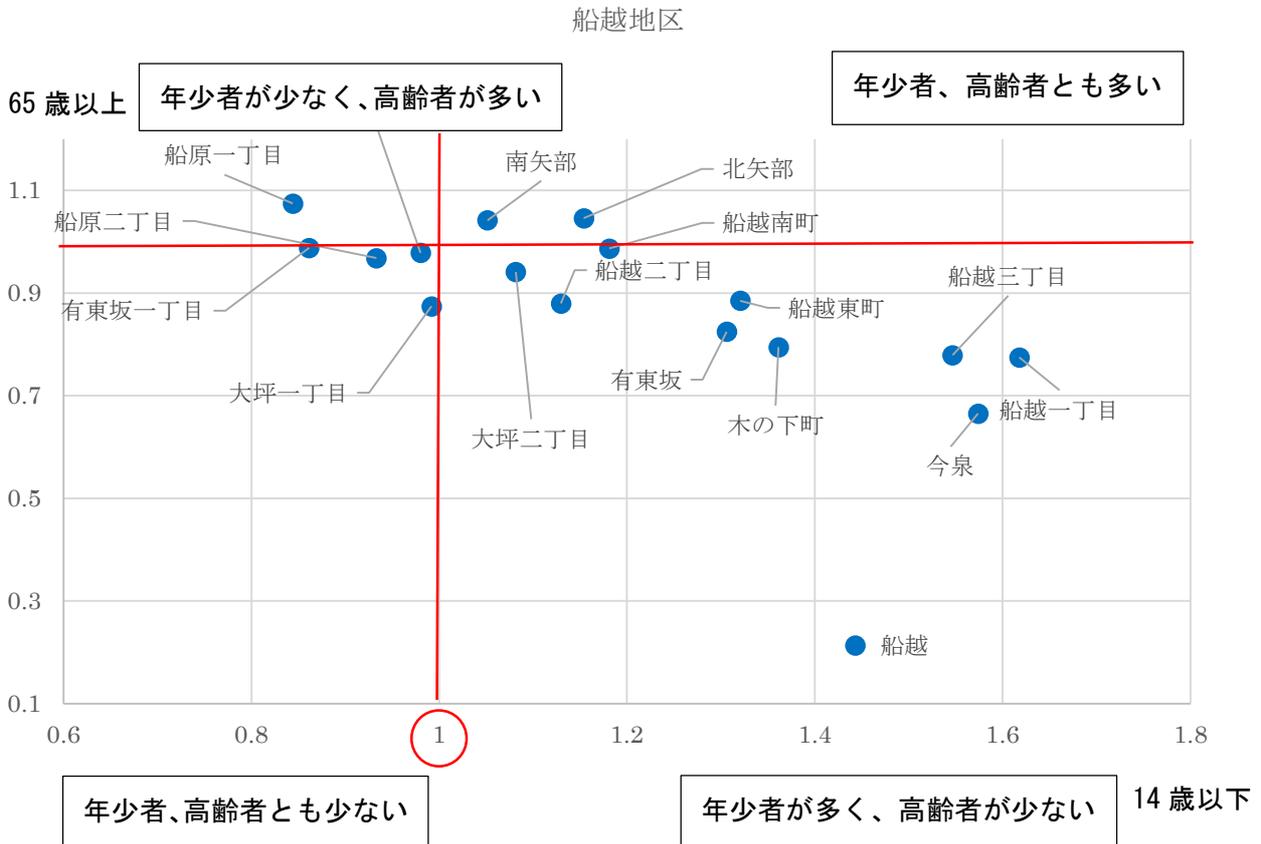
区分	平成27年 (2015年)	令和6年 (2024年)
地区	 2.08人	 1.90人
静岡市	2.16人	1.87人
清水区	1.98人	1.70人

●人口ピラミッド【平成27年(2015年)と令和6年(2024年)の5歳階級別男女別構成】



●町別の14歳以下と65歳以上の割合分布 (清水区の平均値を1とした場合)

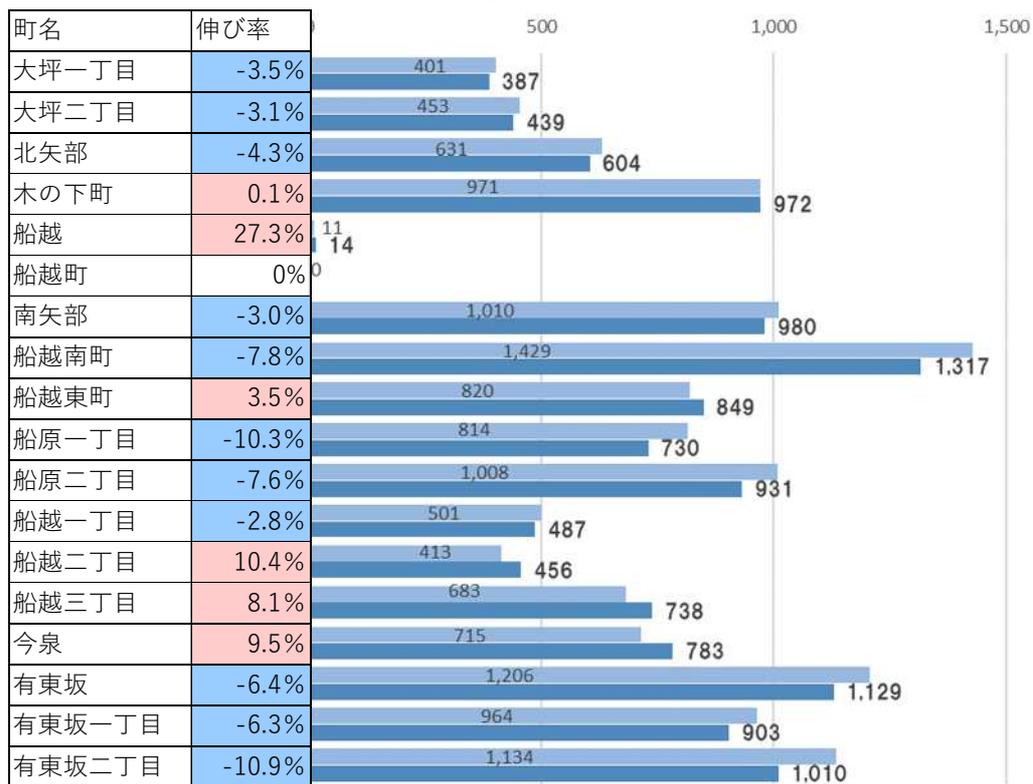
※年少者(14歳以下)高齢者(65歳以上)



●町別の伸び率と人口推移

【平成27年（2015年）と令和6年（2024年）の比較】

人口推移グラフ（上段平成27年 下段令和6年）

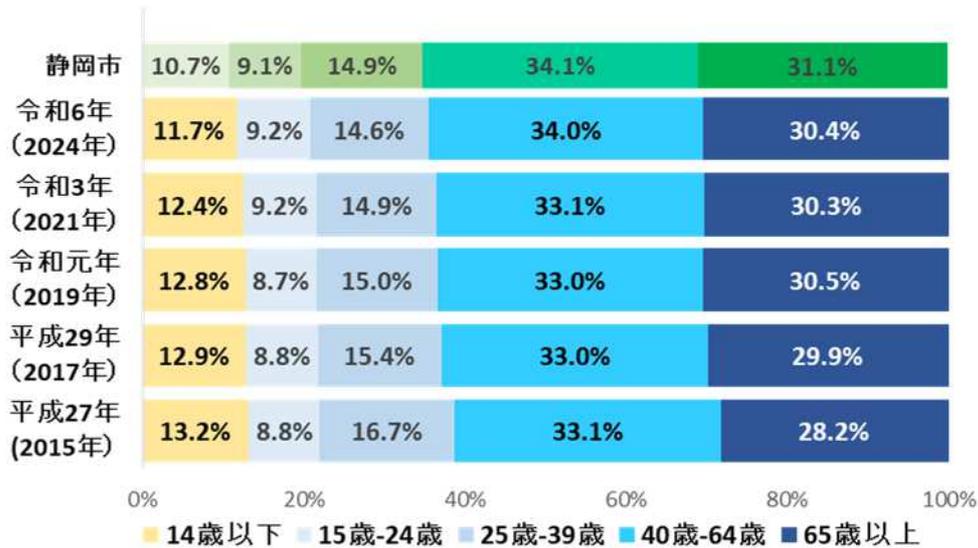


		人 口	
		平成 27 年 (2015 年)	令和 6 年 (2024 年)
<b>船越地区</b>	<b>-3.3%</b>	<b>13,164</b>	<b>12,729</b>
静岡市	-5.3%	713,564	675,610

注) 船越地区の統計上の数値は0表示

●町別人口区分別割合

・年齢5区分別人口割合の推移



※15-24歳は高校から社会人(大学修士課程含む) 25-39歳は社会人(大学博士課程含む)

・令和6年人口3区分別：

市の割合より

青字 14歳以下の割合が低い場合

赤字 65歳以上、75歳以上の割合が高い場合

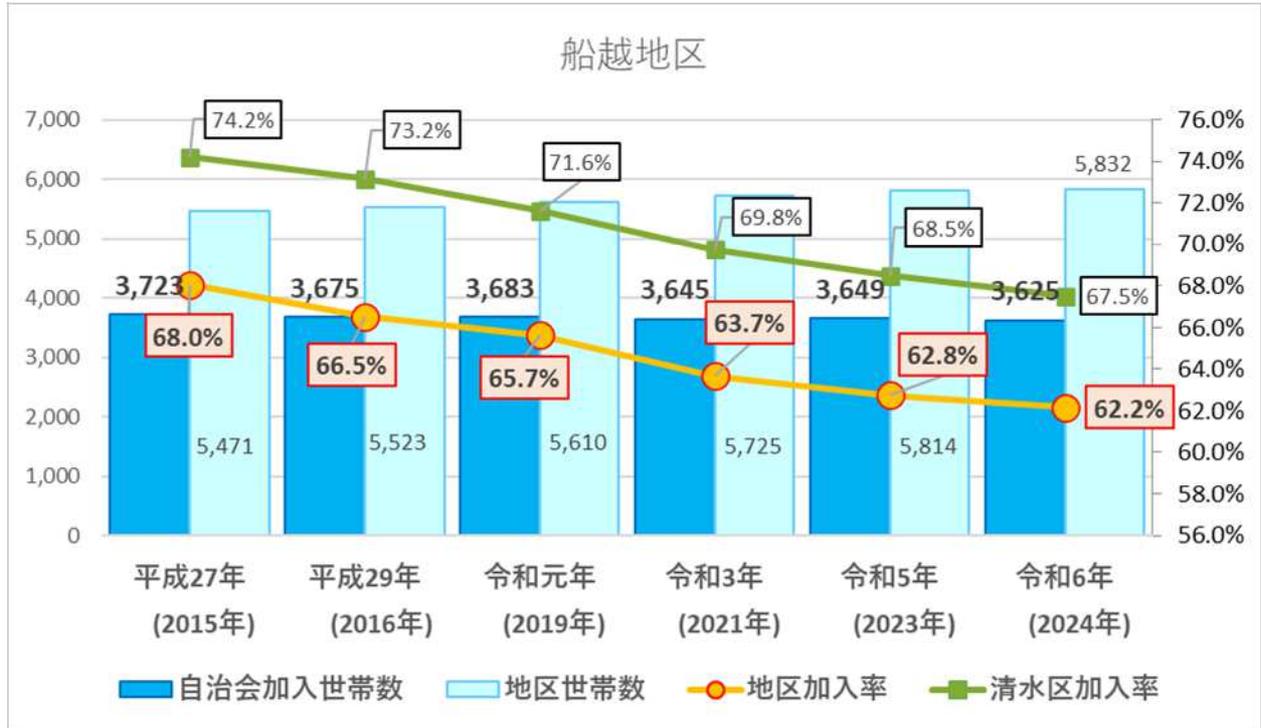
町名	令和6年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
大坪一丁目	9.8%	29.2%	15.5%
大坪二丁目	10.7%	31.4%	16.4%
北矢部	11.4%	34.9%	19.7%
木の下町	13.5%	26.5%	15.5%
船越	14.3%	7.1%	7.1%
船越町	-	-	-
南矢部	10.4%	34.8%	21.9%
船越南町	11.7%	33.0%	20.3%
船越東町	13.1%	29.6%	17.7%
船原一丁目	8.4%	35.9%	21.6%
船原二丁目	9.2%	32.3%	18.7%
船越一丁目	16.0%	25.9%	14.0%
船越二丁目	11.2%	29.4%	19.3%
船越三丁目	15.3%	26.0%	15.3%
今泉	15.6%	22.2%	13.8%
有東坂	12.9%	27.5%	15.4%
有東坂一丁目	8.5%	33.0%	20.9%
有東坂二丁目	9.7%	32.7%	21.3%
船越地区	11.7%	30.4%	18.2%
清水区	9.8%	33.0%	19.3%
静岡市	10.7%	31.1%	18.0%

注) 船越地区の統計上の数値は0表示となっています。

●自治会加入状況

令和6年

加入率	地区	62.2%	加入世帯数	3,625世帯
	清水区	67.5%	住民基本台帳世帯数	5,832世帯



船越地区コメント

- ・人口は減少傾向、世帯数は増加傾向にあります。世帯人数が減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。
- ・人口減少地区はほとんどですが、平成27年と令和6年の比較で、27%以上増加している地区(船越)や10%以上増加している地区(船越二丁目)や微増している地区(木の下町、船越東町、船越三丁目、今泉)が見られます。
- ・令和6年の65歳以上を1人支える生産年齢(15歳から64歳)が市とほぼ同じ1.9人ですが、若い世代の地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。
- ・さらに、自治会の加入率は区の値68%より低い62%ですが、年々減少傾向が見られます。

# 船越地区

## 地名のゆかり

正治2年（1200）、鎌倉を追放された幕府の重臣、梶原平三景時は密かに一族を率いて京都に向かいました。その途中で駿河国清見瀨に至り、土地の豪族入江一族と出あい合戦となりました。

その合戦をした豪族の中に船越三郎がいました。船越氏は船越堤ができる前、この付近に土塁を築き居住していたと伝えられています。梶原討伐に戦功があった入江一族、船越三郎維定の『船越館』は、駒越殿沢山東側と推定されています。

殿沢付近はかつて入海となっており、舟渡しがおこなわれていた地といわれています。一説では、船越三郎維定は有度郡船越村の人である。元の船越村は駒越村で、村中に殿屋 舗という所があり、船越三郎の居跡であります。また、柳船越の名は村中に繰舟の渡し場があり、舟越と呼んでいましたが、船越氏は乗馬の達人でこの渡しを馬で越していました。これを見た里人たちは、舟で越す「舟越」を馬で越す「駒越」に改めたといわれています。

現在の船越は、北矢部、上清水、有東坂、今泉の各村の新田で『四ヶ村新田』と呼ばれていた土地です。

## 夫池・婦池

昔、水田に水を引くためにできた「夫池」と「婦池」の2つの池は、船越の堤と呼ばれ、昭和初期に植えられた桜の成長と共に桜の名所として親しまれてきました。『船越堤』に公園建設の機運が高まってきたのが昭和40年代でした。

「夫池」の周辺は夫池から山にかけてのさくらの道に、そして「花見広場」の下側にと今なお現存し、太いものには大人がひとかかえできないものもあります。特に夫池周囲の園路は大変綺麗に整備され、その中に倒れかかっているような形のものもありますが、それはそのままの形で生かし、池の周囲を散歩する人たちの目を楽しませ、味わいを持たせています。



船越堤の夫池

## 矢部館

昔、南矢部の能満寺の西側に「矢部館」と呼ばれる館がありました。

これは入江一族の矢部氏が建てた館で、東西120m、南北80mほどのものだったと言われています。また館の南側には、所川（現在の浄念川）のくぼ地を利用した堀があり、西側の有度山との間にも堀があったと考えられています。

ここには入江右馬介維清の子孫の矢部一族が住み、今の北矢部、南矢部を支配したと思われていますが、このことから、入江一族の開発が、当時ここまで広がって来たことが分かります。

矢部氏の歴史では、正治2年（1200）に、矢部小次郎家綱が梶原景時討伐で活躍したことや、永禄11年（1568）に、一族が武田軍団との合戦に参加したことが知られています。

現在は遺構らしいものはなく、ただ、この殿屋敷という地名や、付近の馬場、上屋敷などという地名が当時の名残をとどめています。



北矢部の伊勢明神社

## 伊勢神明宮

神明宮の鳥居をくぐり、拝殿に向かう途中、右側に『力石』と書かれた石が置いてあります。これは、その昔、村の力自慢の若者が節句の時などにこの石を持ち上げて、力自慢を競ったという石で、江戸時代から村の辻に置かれていたものを、昭和58年、神明宮奉賛会の人たちが境内に移しその由来を伝えています。

拝殿のうしろ、山の石段をのぼった中腹に本殿が建ち、天保9年（1838）の上棟札が残されています。しかし、その歴史は古く、創建不詳とされていますが、矢部小次郎家綱が先祖18代を祀るため鳥帽子直衣で50cmぐらいの木像をご神体として信仰してきたと伝えられていることから、その歴史をうかがうことができます。



境内にある力石

## 楞巖院(りょうごんいん)

開創は弘治元年（1555）で、厳格な修行の寺として全国に13の末寺を持ち、400年来一度も災害に遭わず、梵鐘の音は絶えることがありませんでした。本堂は十一世覚堂梅苑の代に、壇信徒の施財によって貞享5年（1688）に建立された清水区内でも古い建造物の一つです。

寺宝の主な物は、徳川家累代の朱院状の写し、田中寿安奉納の「大盤若経六〇〇巻」、「三方七膳霊供椀」、紀州徳川家六代藩主宗直の女子悦姫の愛用した黒塗に金の葵紋、梅と松とを散らした模様は施された茶道具十一品が納められた「旅茶筆筒」が残されています。美麗繊細な工芸品として清水区指定文化財になっています。



楞巖院

## 「船越の雨乞い神 黒幣さん」

有度山のふもとに小さな村がありました。ここに住む人は、駿府城をつくる時、遠州の船越村から来た人たちです。ここは大変な荒地なので、毎日朝早くから夜まで、一生懸命田んぼや畑を作りました。ある年の夏、日照りが続き村民は困っていました。そこへ旅僧が通りかかり、「雨乞いによい神様が桑名の多度山神社にあるので行ってみなさい」と言い残して立ち去りました。桑名とは伊勢のことで、とても遠い所でしたので、足の丈夫な二人が出掛けることになりました。

二人は多度山神社に着き、事の次第を神主に話すと、神主はこう言いました。「ここには金と銀と黒の3つの御幣があります。金の御幣は大雨になり、銀の御幣は降るのがおそく、黒は静かに降って荒れるような心配はありません、さて、ご両人はどちらをご希望でしょう」二人は相談し、黒の御幣を頂くことにしました。そして喜びいさんで東海道を東へ、昼も夜も歩き続けました。島田の宿場に交代の村人が待っていて、黒幣は次の人の肩に渡され無事に村に着きました。村人たちは、黒幣を杉の葉で作った「みこし」に移し、「あーめ田んぼじゅーろんベエーた一つの口をひいらいてエー」と口ぐちに叫びながら田んぼの中をねり歩きました。夜になって大人も子供もみんな神社に集まり、御神火をたき、その炎はえんえんと天をこがしました。

人々は夜の更けるのを忘れて一生懸命お祈りしました。

すると、有度山の上に黒雲があらわれ、大粒の雨が降り出し、みるみるうちに田んぼに水がたまりました。それから黒い御幣は村人はもちろん近在の村々からも「黒幣さん 黒幣さん」と呼ばれ、雨乞いの神様としてお参りに来るようになりました。このありがたい黒幣は今もなお船越の神明宮に黒幣さんとして祀られています。



かたりベクラブ提供